

16. テック・コミンコ社(Teck Cominco Limited)

1. 企業概要

本社	カナダ・ヴァンクーヴァー
主要事業	非鉄金属鉱山・製錬、石炭
従業員数	6,210 人
決算日	12 月末日
主要関連会社	・ テックゴールド社 (TeckGold Inc.: 100%)

2. 財務状況 (C\$ million)

	2001 年	2000 年	1999 年
売上高 Revenues	2,379	1,206	622
当期損益 Net earnings (loss)	(21)	85	45
資産 Total assets	5,153	5,102	2,662
流動資産 Current assets	1,044	1,196	351
負債 Total liabilities	2,593	3,407	1,049
流動負債 Current liabilities	435	436	102
株主資本 Shareholder's Equity	2,560	1,695	1,613
探鉱費 Exploration	59	32	27

3. 主要鉱産物の生産・開発状況

主要鉱産物の生産推移

	2001 年	2000 年	1999 年	2001 年の 世界シェア
銅鉱石 (000 t)	170.4	83.3	52.4	1.3 % (16 位)
亜鉛鉱石 (000 t)	730.7	208.2	37.3	8.2 % (2 位)
亜鉛地金 (000 t)	290.2	94.0	-	3.2 % (9 位)
鉛鉱石 (000 t)	157.5	40.0	8.6	5.2 % (5 位)
鉛地金 (000 t) ¹	55.2	25.8	-	1.4 % (8 位)
金 (t)	17.2	15.7	16.7	0.7 % (21 位)
ニオブ (kg) ²	-	1,085	1,147	-
原料炭 (000 t)	6,671	4,926	3,440	-

2000 年の亜鉛鉱石及び鉛鉱石、銅鉱石の生産量が 1999 年に比べて大幅に増加しているが、2000 年にコミンコ社への出資比率をそれまでの 44% から 50.1% に引き上げたことにより、第 4 四半期から、コミンコ社の生産量の全てがテック社の生産量に反映されたことによる。また、亜鉛地金及び鉛地金もコミンコ社による生産である。

¹ 鉛地金のシェアは、2000 年のコミンコ社の数字。

² 2001 年 3 月に、ケベック州 Niobec ニオブ鉱山の 50% の権益を Mazarin 社に売却した。

4. 沿革

テック社の前身である Teck-Hughes Gold Ltd.社は、当初金鉱床開発を目的として設立された。その後、合併・買収により事業規模を拡大、銅、亜鉛、ニオブなどの非鉄金属のほか、石炭にも事業対象を広げ、総合資源企業として現在に至っている。

1913年、オンタリオ州 Kirkland Lake において Teck-Hughes 金鉱床が発見され、その開発を目的として Teck-Hughes Gold Ltd.社が設立された。Teck は金鉱床の所在地名、Hughes は鉱床発見者の名前に由来する。34年には Lamaque 鉱山が、同社2番目の鉱山として操業を開始した。

63年8月、Teck-Hughes Gold Ltd.社は、Lamaque 鉱山の事業主体であった Lamaque Gold Mines Ltd.社（37年設立）および Canadian Devonian Petroleum Ltd.社（51年設立）を合併し、社名を Teck Corp Ltd.社とした。なお、現在の社名（Teck Corp.）は、78年、カナダ会社法の改定に伴い登録されたものである。

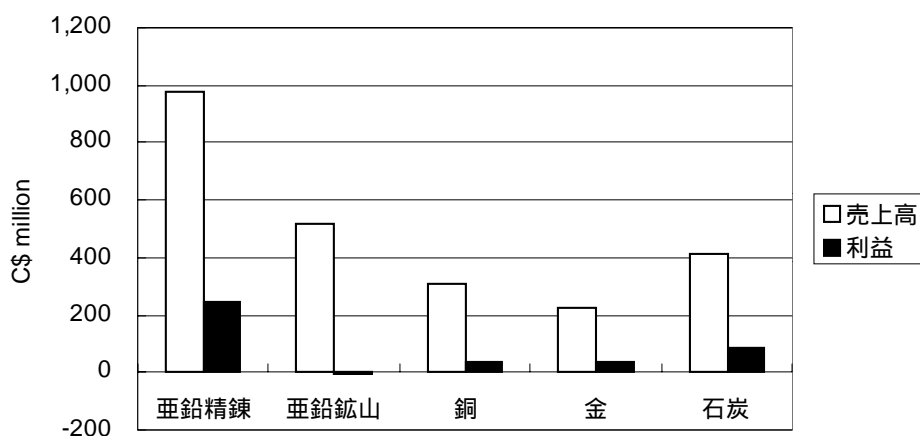
75年、Newfoundland（亜鉛、ニオブ）Afton（銅）、Highmont（銅、モリブデン）の各鉱山を相次いで開発し、金以外にも対象鉱種を広げた。79年に Brameda Resources Ltd.社、The Yukon Consolidated Gold Corp.社を合併、81年に Afton Mines Ltd.社を統合、さらに83年には Copperfields Mining Corp.社を合併するなど、合併、買収、資本参加による事業拡大を図っている。

86年、テック社を中心とした、MG社（Metallgesellschaft AG：独）、MIM社（豪州）を含むコンソーシアムが、経営の悪化していたコミンコ社の権益を Canadian Pacific Enterprise 社から買収、世界的な鉛・亜鉛の権益を保有するに至った。その後、90年代初めに MG社が経営破綻したことによって資本提携関係は解消されたが、2000年にはコミンコ社に対する出資比率を50.1%に引き上げ、2001年7月に合併し、テック・コミンコ社となった。

5. 事業内容

テック社の事業は、金、亜鉛（精錬・鉱山）、銅、石炭の5グループに分けられる。テック社とコミンコ社の合併前は、テック社の売上高に占める割合は金をもっとも大きかったが、コミンコ社との合併で、ベースメタルの売上高に占める割合が最も高くなった。

2001年部門別売上高と利益



利益は Operating profits

(1) ベースメタル

亜鉛・鉛

ポラリス鉱山（カナダ・ヌナバット準州）、レッド・ドッグ鉱山（米国・アラスカ）に権益

を保有する。なお、サリバン鉱山（カナダ・BC州）は鉱量枯渇のため2001年第4四半期に閉山した。また、いずれもトレイル製錬所（カナダ・BC州）、カハマルキア精錬所（ペルー）に権益を保有し、亜鉛地金などを生産している。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万t	タイプ	品位	生産量
ポラリス（カナダ） Polaris	100	0.8	UG	12.6% Zn 2.9% Pb	123千t Zn 29千t Pb
レッド・ドッグ（米国） Red Dog	100	94.5	OP	17.6% Zn 4.6% Pb	518千t Zn 95千t Pb

2001年主要権益保有製錬所による地金生産

オペレーション名	権益 %	地金生産量 (権益分)
トレイル製錬所（カナダ） Trail Smelter & Refinery	100	168千t Zn 55千t Pb 287t Ag
カハマルキジャ精錬所（ペルー） Cajamarquilla Refinery	82	122千t Zn (100千t)

- ・ レッド・ドッグ鉱山は埋蔵量・精鉱生産量とも世界最大の鉱山で、68年に鉱床が発見され、90年にコミンコ社により生産が開始された。同鉱山では、現在浮選設備等の拡張工事を実施し、年間鉱石処理量が1.1百万トンとなっている。この拡張工事に関する投資額はUS\$105百万である。
- ・ ポラリス鉱山は、鉱量枯渇のため2002年9月に閉山した。
- ・ トレイル製錬所は、2000年にはAviles製錬所（スペイン）、温山製錬所（韓国）、葫芦島製錬所（中国）について世界第4位の亜鉛生産量を誇ったが、最近の亜鉛価格の低迷及び電力価格の高騰から2001年は生産量を約40%減らした。
- ・ カハマルキジャ精錬所は、94年にペルー政府から買収したものである。この際、丸紅（株）が17%の権益を取得している。98年第2四半期に第一期拡張工事が完了し、亜鉛地金生産能力は20%増の120千tとなった。同精錬所では2001年の亜鉛生産量は前年と比べてほとんど変わりがなかったが、トレイル製錬所と同様に亜鉛価格の低迷から、2002年は6月から8月の3ヵ月間、生産を休止した。

銅

ハイランド・バレー（カナダBC州）、ルービコート（カナダ・ケベック州）³、アンタミナ（ペルー）³の各鉱山に権益を保有する。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ハイランド・バレー（カナダ） Highland Valley	63.9	345.1	OP	0.41%	181千t (115千t)
ルービコート（カナダ） Louvicourt	25	4.1	UG	3.06% Cu 1.9% Zn	52千t Cu (13千t Cu) 18千t Zn (4千t Zn)

³ ノランダ社の章を参照

アンタミナ (ペルー) Antamina	22.5	552	OP	1.23 % Cu	80 千 t Cu (18 千 t Cu)
				1.03 % Zn	19 千 t Zn (4 千 t Zn)

- ・ ハイランド・バレー鉱山は、BHP ピリトン社との JV であり、2009 年まで生産が予定されている。

(2) 金

100%子会社のテックゴールド社を通してウィリアムズ、ディビッド・ベルの各鉱山(以上、カナダ・オンタリオ州)を保有する。なお、テックゴールド社の豪州子会社パックミン社の権益は2001年に豪州 Sons of Gwalia 社に売却した。

2000 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ウィリアムズ (カナダ) Williams	50	36.3	UG、OP	3.4 g/t	13.9 t (6.9 t)
ディビッド・ベル (カナダ) David Bell	50	3.2	UG	10.4 g/t	5.3 t (2.6 t)

- ・ ウィリアムズ鉱山はカナダで第2位の産金量を誇る鉱山で、バリック社との JV で生産されている。ディビッド・ベル鉱山もウィリアムズ鉱山と同様にバリック社との JV で、同鉱山の鉱石はウィリアムズ鉱山の処理場で処理されている。

6. 探鉱戦略

(1) 概要

テック・コミンコ社の探鉱活動は、本社ヴァンクーヴァーが中心となり、カナダ及び米国に複数の地域探鉱事務所を置き、さらにメキシコ、ペルー、チリ、ブラジル、オーストラリア、トルコ、ナミビアにもプロジェクトに関連した事務所を設置して行われている。同社は、柔軟かつ開かれた探鉱活動を方針としており、自社探鉱だけでなく、多くのメジャー企業あるいはジュニア・カンパニーと共同で探鉱活動を実施している。

テック社とコミンコ社の合併前のテック社の2001年の探鉱予算はUS\$30.5百万であり、主要非鉄金属企業中第18位であった。また、コミンコ社の2001年の探鉱予算はUS\$22.4百万であった。

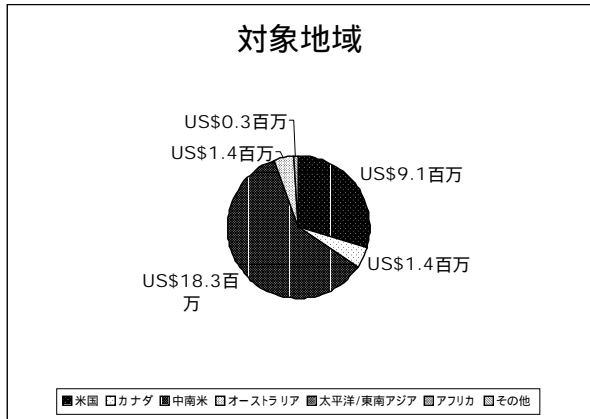
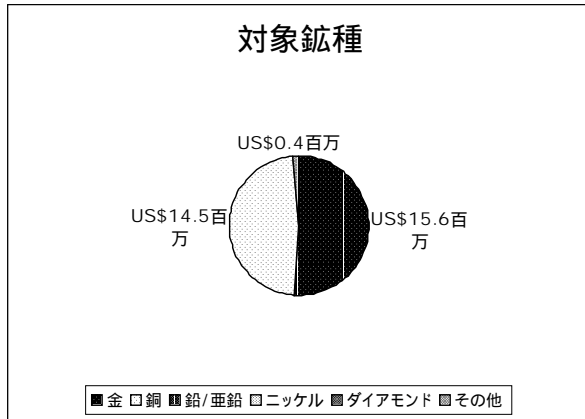
(2) 対象鉱種

テック社は金を対象とした探鉱及び銅を対象とした探鉱にそれぞれ約5割の予算を充てている。一方、コミンコ社は鉛・亜鉛鉱床の探査に予算の9割弱を充てている。合併後は、ベースメタルを対象とした探鉱の比率が高くなっている。

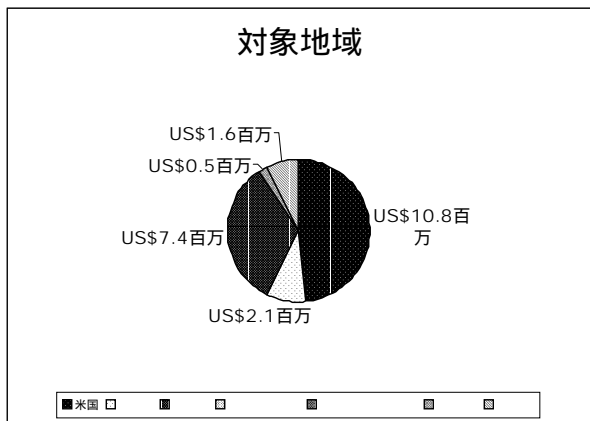
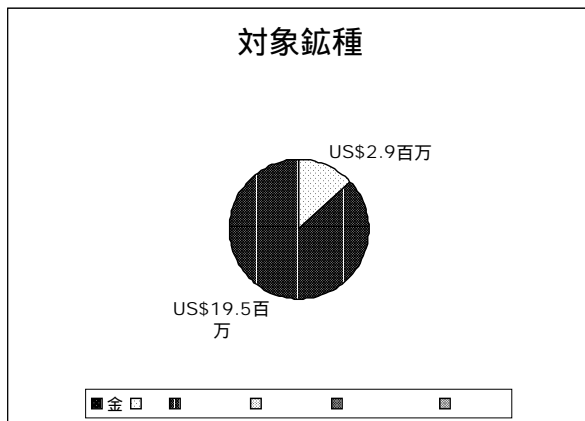
(3) 対象地域・探鉱段階

テック社は中南米地域に6割の予算を充てているほか、米国に約3割の予算を充てている。一方、コミンコ社も米国、中南米地域に予算の多くを充てている。テック社の2001年の探鉱予算はグラス・ルーツにUS\$11.5百万(38%)、事業化調査にUS\$19.0百万(62%)が充てられており、コミンコ社はグラス・ルーツにUS\$13.7百万(61%)、事業化調査にUS\$4.2百万(19%)、鉱山周辺調査にUS\$4.5百万(20%)を充てている。

テック社



コミンコ社



(北米)

カナダでは、ブリティッシュ・コロンビア州、オンタリオ州、ケベック州で金及びベースメタルを対象にグラスルーツの探鉱を実施している。

米国では、アラスカ州で住友金属鉱山とのJVでポゴ金鉱床の事業化に向けた調査を実施中である。同鉱床は、予想埋蔵量9百万トン、金品位18.9 g/tと計算されている。

また、ワシントン州北東部に位置するPend Oreille 鉛・亜鉛鉱床の探鉱を進めており、2000年にF/Sを終えているが、市況の低迷から開発が延期されている。同鉱床は、推定埋蔵量5.5百万トン、亜鉛品位7.3%、鉛品位1.3%と計算されている。また、レッド・ドッグ鉱山周辺で探鉱を実施しており、Anarraaq 鉱床を初めとしていくつかの鉱徴が発見されている。

(中南米)

メキシコ・サカテカス州のSan Nicolas 銅・亜鉛塊状硫化鉱床の権益を79%保有する。同鉱床は鉱量73百万t、銅品位1.3%、亜鉛品位1.9%と見込まれており、2002年1月にF/Sを終了している。また、メキシコ・シティ南西方のEl Limon 金鉱化帯でよい探鉱結果が得られている。

他の中南米地域では、ペルーではプロジェクト開拓のための評価を実施しているほか、ブラジルでインコ社とTucuma 地域の評価を実施している。

(その他)

オーストラリア、トルコ、ナミビアでプロジェクト評価を実施している。